

星をみる会

令和5年6月3日(土)、8月13日(日)、11月18日(土)、令和6年1月13日(土)

【目的】

親子を主な対象に、本所が有する資源を活用した自然体験活動である「天体観察」の機会を提供する。その際、季節によって自然のすがたが変化することなど、自然に対する理解をより深められるよう、年間を通じて計4回開催する。

【参加者】天体観察に興味・関心のある家族 延べ93家族(327名)

【プログラムの内容】

回	開催日	テーマ	参加人数	天候
1	6月3日(土)	春の大三角と金星・火星・月(月齢④)	20家族(70名)	晴れ
2	8月13日(日)	ペルセウス座流星群・夏の天の川	31家族(112名)	晴れ
3	11月18日(土)	しし座流星群・木星・土星・月(月齢⑤)	29家族(102名)	晴れ
4	1月13日(土)	秋と冬の星座と天の川・土星・木星	13家族(43名)	曇り時々晴れ



天体望遠鏡を使った観察の様子

「ペルセウス座流星群・夏の天の川」(第2回)

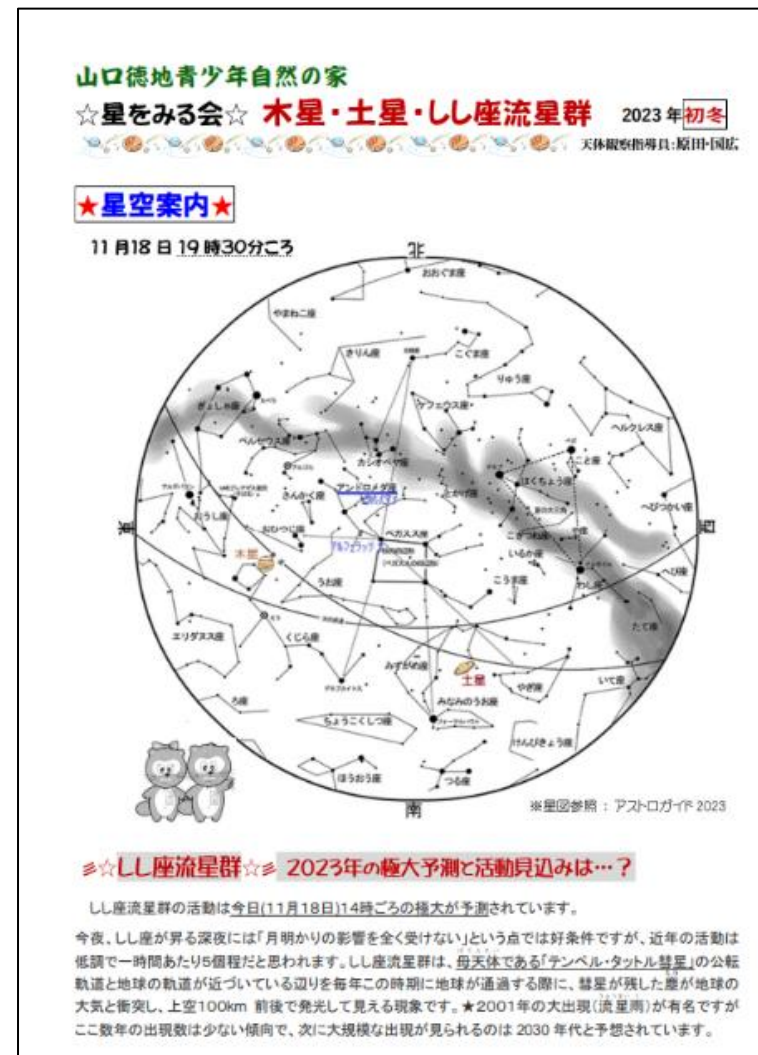
天の川や夏の大三角の解説を聞きながら観察した。この日は流れ星も観察することができ、「自然のプラネタリウムのように、とても贅沢な時間を過ごさせていただきました」という参加者の感想からも分かるように、多くの星が見える貴重な機会となった。

「しし座流星群・木星・土星・月(月齢⑤)」(第3回)

天体望遠鏡を使って、木星・土星・月などの観察をおこなった。指導員がレーザーポインターを用いて天体を紹介することで、参加者が解説をわかりやすく聞くことができていた。また、指導員が作成するレジュメを毎回配布し、帰宅後も天体について学ぶ機会を作ることができた。

「秋と冬の星座と天の川・土星・木星」(第4回)

雲が出て星が隠れた際は、プロジェクターを使いながら、冬の星座についての解説を行った。晴れ間が見えた時間帯は、望遠鏡を使って、土星や木星などの観察を行った。参加者から「前回よりも土星が立体的に見える!」といった声があり、自然のすがたが変化することを学ぶ機会となった。



配布したレジュメ(第3回)

【参加者の声】

- ・講師の方の説明が分かり易く、星に対して親しみを覚えることができました。(第1回)
- ・普段なかなかできない貴重な体験ができ、子供たちも大変喜んでいました。今回は夏でしたが、他の季節もぜひ参加したいと思います。(第2回)
- ・丁寧に繰り返し説明していただき、全く知識がなくてもとても楽しめました。ありがとうございました。(第3回)
- ・また参加したい。レーザーポインターを使って示してくれるので良かった。(第3回)
- ・雨が降ったり雲が出たりとありましたが、たくさんの星を見ることができてとても貴重な時間を過ごすことができました。(第4回)

【成果】

年間を通じて複数回開催することで観察の機会が増え、季節ごとに異なる自然に触れる機会をつくることができた。各回、指導員が2名いることで、1名が天体望遠鏡を操作して観察できる天体を紹介している間に、もう1名がレーザーポインターを使用して星座や特徴的な星を紹介するなど、参加者が様々な星空のすがたを観察する機会をつくることができた。

【課題】

天候によっては参加者にとって十分な観察の機会が提供できないことがあった。そういった場合にも参加者が「来てよかった」と思えるよう、模型やプロジェクターを用いた説明について指導員と十分に打合せをしておく必要がある。